

ごみ減量化モデル事業中間アンケート調査結果

ときがわ町では2つの地区に、令和3年3月1日から、30世帯の方に第3期ごみ減量化モデル地区としてご協力をいただいています。

今後、町全体への取り組みへつなげていくために、協力者の皆様に以下の内容でアンケート調査を行ない、結果を取りまとめましたので報告いたします。

- 1 目的:ごみ減量化に意識的に取り組んでいる世帯の意識や意見を参考にして、今後の事業の展開に役立てて、町全体への取り組みにつなげる。
- 2 対象:ごみ減量化モデル事業の協力世帯(30世帯)
【仲井1区 15世帯 馬場地区 15世帯】
- 3 期間:令和3年8月17日～令和3年8月31日
- 4 方法:協力世帯にアンケート用紙を直接配布。無記名で回収。

5 集計結果

問1 モデル事業を中心で行っている方の、該当するものに印をお願いします。

・性別

男性 27人 女性 3人

・年齢

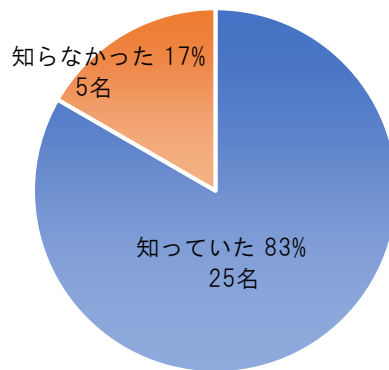
20歳代 0人
30歳代 0人
40歳代 1人
50歳代 6人
60歳代 6人
70歳代 11人
80歳代以上 5人

問2 回答者様を含めた、同居しているご家族の人数をお答え下さい。(人)

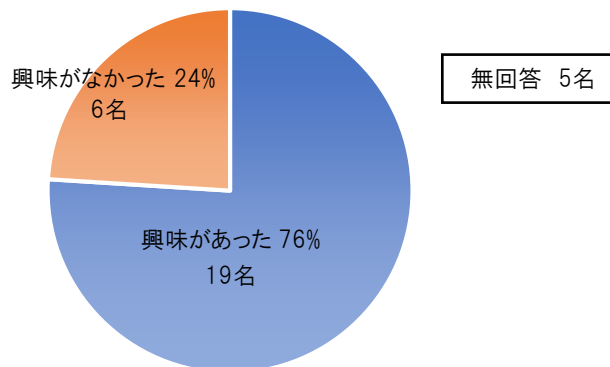
1～2名 16世帯
3～4名 11世帯
5～6名 3世帯

アンケート集計結果表

問 1	ごみ減量化モデル事業についてご存知でしたか？		計
	1	知っていた	25
	2	知らなかった	5
	合 計		30

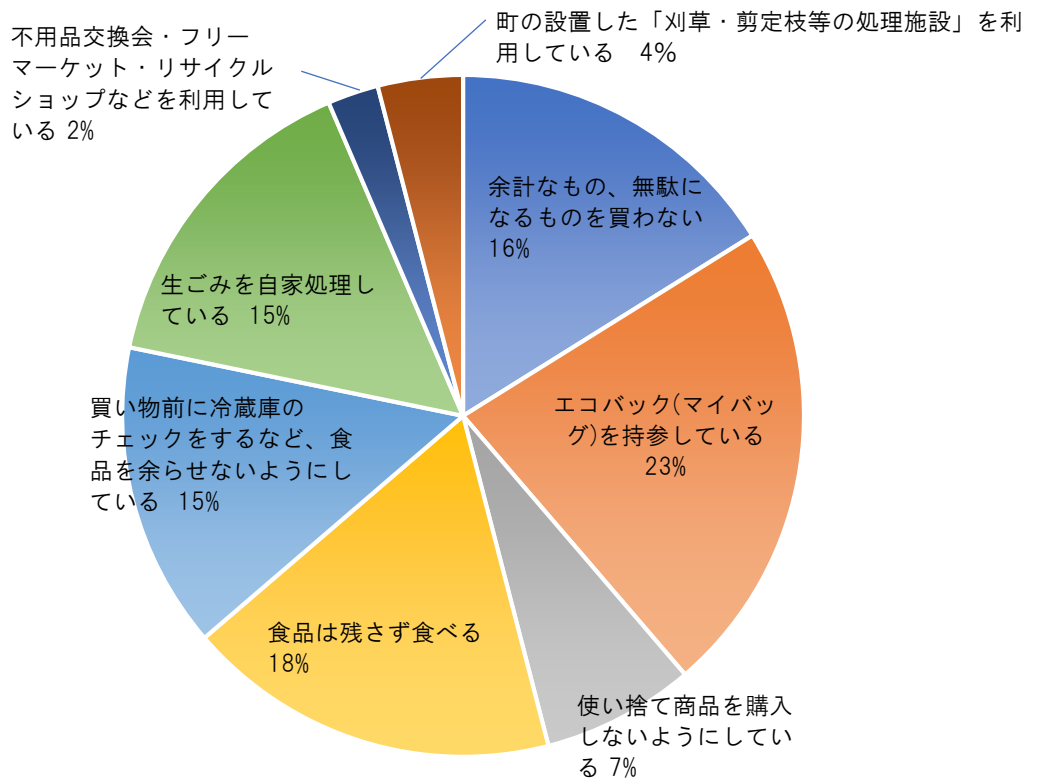


問 2	問1で知っていたと回答された方は、ごみ減量化モデル事業に興味がありましたか？		計
	1	興味があった	19
	2	興味がなかった	6
	合 計		25

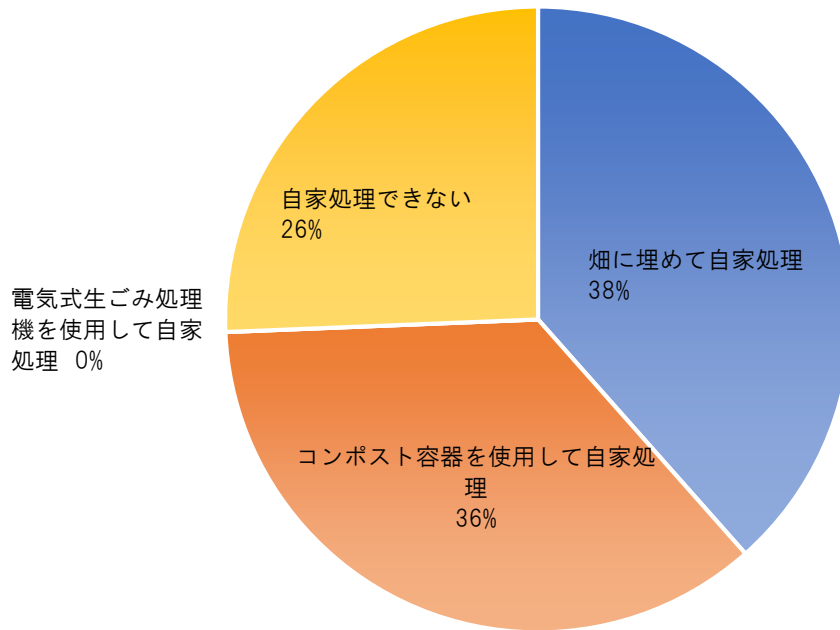


ごみ減量化の取り組みで、実行していることはなんですか？		計
1	余計なもの、無駄になるものを買わない	20
2	エコバック(マイバッグ)を持参している	28
3	使い捨て商品を購入しないようにしている	9
4	食品は残さず食べる	22
5	買い物前に冷蔵庫のチェックをするなど、食品を余らせないようにしている	18
6	生ごみを自家処理している	19
7	不用品交換会・フリーマーケット・リサイクルショップなどを利用している	3
8	町の設置した「刈草・剪定枝等の処理施設」を利用している	5
合 計		124

問 3



問 4	排出されるごみの約7割が可燃ごみで、その約4割が生ごみとされています。 生ごみの自家処理の可否についてお答えください。		計
	1	畑に埋めて自家処理	15
	2	コンポスト容器を使用して自家処理	14
	3	電気式生ごみ処理機を使用して自家処理	0
	4	自家処理できない	10
	合 計		39



【 自由なご意見 】

- ・ 食品はほぼコンビニ等の利用で生ごみはほとんど出ない(ほぼ料理はしない)
プラごみは多いけど家族で話し合っごみの減量化を図っている
- ・ ごみ減量化事業はいいことだと思う
- ・ エコバックを各家に配る デリバリーにする
- ・ 自家処理する場所がない
- ・ 全地区でごみ減量化モデル事業を実施する
- ・ 腐る物は土に帰す。植物も喜ぶ
- ・ 1年は長すぎる。3~4ヵ月で次の方に回し多くの方々が体験し意識を持つ事は大事である
- ・ まだ庭草を干さずに直ぐに出している方がいる
- ・ コンポスト設置に適した場所がない
- ・ 高齢者2人家族なので自家処理の管理がおっくうで、むしろ生ごみを発生させない工夫をしている
- ・ 減量化モデル事業は減量化の意識向上に大変役立っている
- ・ 可燃ごみを減らすのは当然ですが、資源プラとはいえ石油系の製造物です。メーカーへの働きかけの問題
だと思いが、梱包材として少なくしていくべき
- ・ 生ごみを自家処理できる家庭はすべきだ
- ・ コンポストは生ごみが分解するのが遅いので早くなる薬品等を教えてほしい
- ・ 荒れた農地へ生ごみを埋めれば良い
- ・ 自家処理する時間がない
- ・ コンポスト容器を全戸に配布して活動する
- ・ 生ごみが自家で処理され肥料として利用する
- ・ 雑がみを意識するようになった
- ・ 商品の紙箱はのりづけ部分をはがして平らにしている。以前ははさみで裁断して可燃ごみに出していた
- ・ 生ごみはいただいたコンポストで堆肥化して借りた畑に混ぜ込んでいる
- ・ 広報や回覧板を通じごみ出しの意識を高めるPRが必要ではないか
- ・ コロナの状況が好転したら各地区でごみ減量化についての広報活動をした方がよい。全員対象でなくても役員会、組長会などの機会を活用してごみ減量化モデル事業は代表者のご負担を考えると1年ではなく半年で十分だと思う
- ・ 取り組み成果が形にあらわせると良いと思う

【 まとめ 】

- ・ 多くの参加者がエコバッグ(マイバッグ)を持参したり、食品は残さず食べる等、ごみ減量への関心を持って取り組んでいることがわかる
- ・ ごみ分別の意識が変わることが重要。町は今後も広報等を通じて情報発信していきたい
- ・ 生ごみの水切りや堆肥化、雑がみの資源化、剪定枝や刈草等の受入れ施設の活用を、更に積極的に推進することで、減量効果を更に向上させていきたい
- ・ ごみの減量化を進める上で、74%の方が自家処理ができ、26%の方が自家処理できないという結果となった。町では一部の地域にとどまらず、町全体の取組に広げていくことで、負担金の削減のみにとどまらず、更に大きな経費削減を図りたい
- ・ いただいたご意見を参考に、この取組みに反映させていきたい